

# 生成AIでシステム改良

## プログラミング習得に

【三重・伊勢】JA伊勢IT・DX対策課は、プログラミング知識を習得のため、生成系人工知能（AI）サービス「ChatGPT」を活用するなど新たな技術を積極的に活用している。

## テキストより効率的



同JAは、水稻苗の注文やライセンダーの利用申し込み、集出荷情報の入力などのデジタル化、ロボティック・プロセス・オートメーション（RPA）などを活用した定型業務の効率化などに取り組んでいる。

デジタル化には、クラウドサービスを活用し、職員が独自にプログラミングをして利用者・職員のニーズに沿

「ChatGPT」を使ってサービスをカスタマイズする職員

ったシステムにカスタマイズしてきた。カスタマイズには、高度なプログラミングを行う

必要がある。このため、同課の職員はAIチャットツール「ChatGPT3.5」を活用。クラウドサービスをカスタマイズするための専門的なコードをチャットで質問し、プログラミング知識を習得した。

「ChatGPT」には、個人情報や機密情報を入力すると、A

Iが学習してしまうセキュリティリスクがある。そこで「JA」などの単語やホームページのアドレスなど、組合を特定できるものや機密情報は入力せずに存在しないタミーのものを代替で入力し、チャットで質問をするなどしてセキュリティ対策を講じた。

職員は「プログラミングの知識を身に付けようとテキストを読んでも、基礎知識がなく難解で、質問できる専門家もいなかった。ChatGPTからプログラミングの知識を学ぶことで、プログラミングの学習とカスタマイズを効率的に実現できた」と話していた。